

2024.25 年度エコアクション 21

環境経営レポート

活動期間 2024 年 7 月～2025 年 6 月

発行 2025 年 10 月 29 日



環境方針

我々の生活環境をおびやかす気候変動、地下資源の枯渇、核問題、大量生産・大量廃棄など、対処すべき問題は山積であり、このままでは未来の世代にまで負担を強いることになってしまいます。

私たち山田建設株式会社では、建設業の事業活動において継続的改善と環境負荷の低減を図り、未来の世代のため、ムリ・ムダ・ムラのない持続可能な活動を目指します。

- 1 電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減に取り組みます。
- 2 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進に取り組みます。
- 3 水資源使用量の削減に取り組みます。
- 4 化学物質使用量の削減に取り組みます。
- 5 グリーン購入の推進に取り組みます。
- 6 環境に配慮した取組を推進します。
- 7 環境関連法規制や当社が約束したことを順守します。

制定 2015年8月17日

改定 2023年3月1日

山田建設株式会社

代表取締役



組織の概要

●名称及び代表者

山田建設株式会社
代表取締役 山田 孝

●事業の内容 許可業種

土木、とび・土工、舗装、水道施設工事業、解体
山形県知事許可(特-2) 第 400105 号
建築、大工、屋根、管、タイル・れんが・ブロック鋼構造物、鉄筋、内装仕上、造園工事業
山形県知事許可(般-2)第 400105 号
山形県産業廃棄物収集運搬業
第 0604125172 号
宮城県産業廃棄物収集運搬業
第 00400125172 号
特例浄化槽工事業者
山形県知事(届-22)新第 65 号
屋外広告業
山形県屋外広告業登録第 570 号

●所在地及び連絡先

〒999-6104 山形県最上郡最上町大字本城 396-2
TEL (0233) 43-2168 FAX (0233) 43-2004
Email info@yamada-inc.jp
環境管理責任者 山田 孝
環境事務担当者 山田 ゆかり

●事業規模

売上高 5 億円
従業員 23 名
延床面積 本社 294 m²、資材倉庫 302 m²の合計 596 m²

対象範囲と対象取組期間

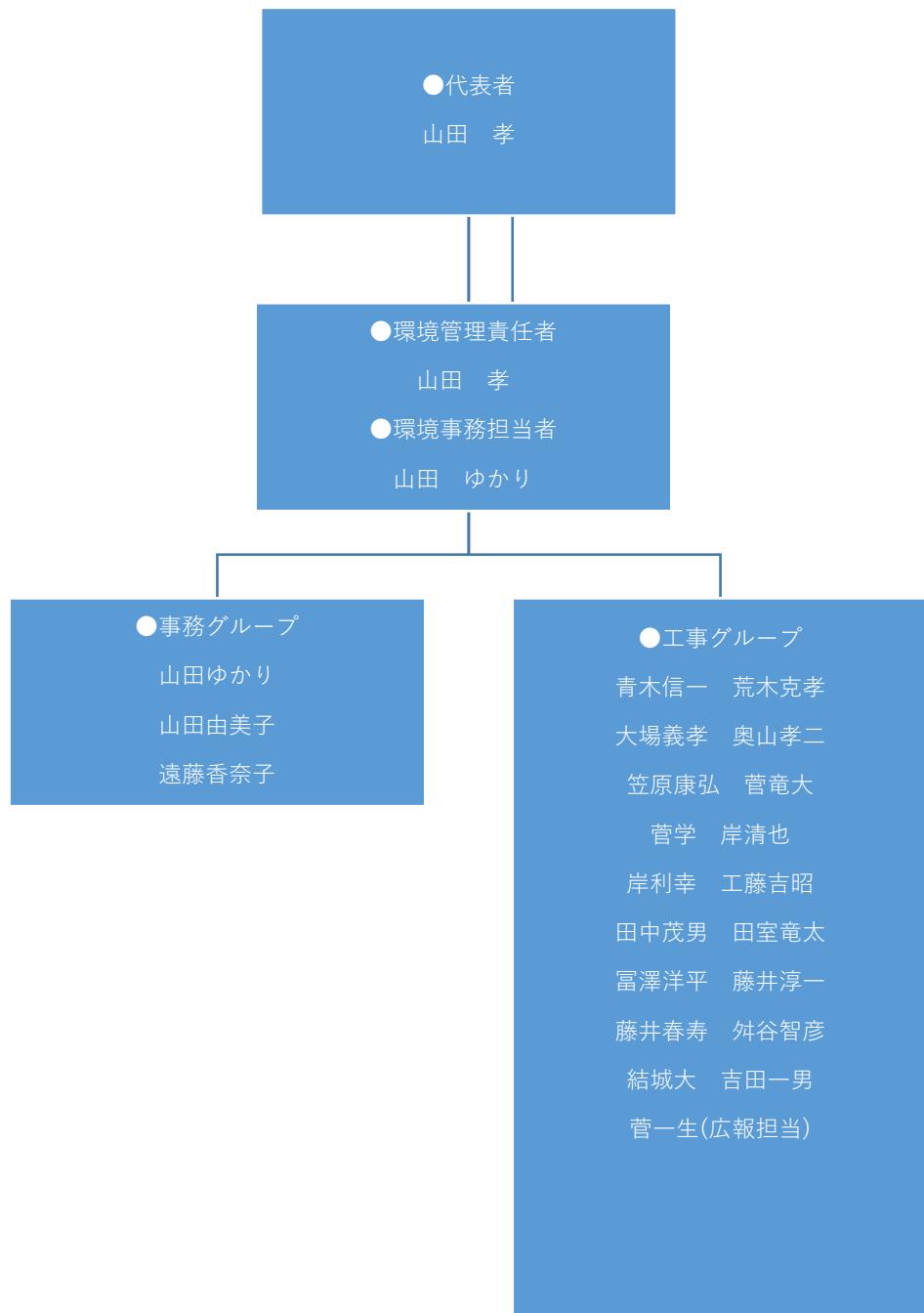
●認証・登録の対象範囲

山田建設株式会社における全組織・全活動

●環境活動レポートの対象取組期間

2024年7月1日～2025年6月30日

実施体制図及び役割・責任・権限表



役割・責任・権限

代表者	<ul style="list-style-type: none">・環境経営に関する統括責任・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備・環境管理責任者を任命・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする・環境目標・環境活動計画書を承認・代表者による全体の評価と見直しを実施・環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none">・環境経営システムの構築、実施、管理・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施・環境関連法規等の取りまとめ表を承認・環境目標・環境活動計画書の作成と確認・環境活動の取組結果を代表者へ報告・環境活動レポートの作成と確認・環境方針の周知・従業員に対する教育訓練の実施・環境活動計画の実施及び達成状況の報告・必要とされる手順書の作成及び手順書による実施・想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成・試行・訓練を実施、記録の作成・問題点の発見、是正、予防処置の実施
環境事務担当者	<ul style="list-style-type: none">・環境管理責任者の補佐・環境活動の実績集計・環境関連の外部コミュニケーションの窓口・環境活動レポートの公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
全従業員	<ul style="list-style-type: none">・環境目標達成するための活動の実施・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環境目標

●事業所環境目標		2024.25 年度	2025.26 年度	2026.27 年度
二酸化炭素排出量	電力消費量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
二酸化炭素排出量	ガソリン消費量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
二酸化炭素排出量	軽油消費量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
二酸化炭素排出量	灯油消費量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
二酸化炭素排出量	上記合計(kg-CO2 換算値)	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
廃棄物排出量	一般廃棄物排出量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
総排水量	水使用量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
グリーン購入	グリーン購入件数	2023.24 年度と同等以上取り組む	2024.25 年度と同等以上取り組む	2025.26 年度と同等以上取り組む
●建設現場環境目標		2024.25 年度	2025.26 年度	2026.27 年度
二酸化炭素排出量	ガソリン消費量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
二酸化炭素排出量	軽油消費量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
二酸化炭素排出量	灯油消費量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
二酸化炭素排出量	上記合計(kg-CO2 換算値)	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
廃棄物排出量	産業廃棄物排出量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
化学物質排出量	化学物質使用量	2023.24 年度と同等以上減少させる	2024.25 年度と同等以上減少させる	2025.26 年度と同等以上減少させる
社会貢献	環境への配慮した活動件数	2023.24 年度と同等以上取り組む	2024.25 年度と同等以上取り組む	2025.26 年度と同等以上取り組む

環境目標の実績

●事業所環境目標の実績 7月～6月		単位	2024.25年 度計画値	2024.25年 度実績値	数値差	増減 比率	達成 状況
二酸化炭 素排出量	電力消費量	kwh	3514	4241	727	120.7%	×
二酸化炭 素排出量	ガソリン消費 量	p (2600.65 ℥)	8.022 (851.80 ℥)	3.212	▲4.81	40.0%	○
二酸化炭 素排出量	軽油消費量	P (319.20 ℥)	1.376 (2132.64 ℥)	6.877	5.501	499.8%	×
二酸化炭 素排出量	灯油消費量	ℓ	781	855	74	109.5%	×
二酸化炭 素排出量	上記合計	kg- CO2	10886.32	12130.10	1243.78	111.4%	×
廃棄物排 出量	一般廃棄物排 出量	kg	438.5	418.5	▲20.0	95.4%	○
総排水量	水使用量	m3	39	38	▲1	97.4%	○
グリーン 購入	グリーン購入 件数	件	30	60	30	200.0%	○
●建設現場環境目標の実績 7月～6月		単位	2024.25年 度計画値	2024.25年 度実績値	数値差	増減 比率	達成 状況
二酸化炭 素排出量	ガソリン消費 量	P (2411.94 ℥)	6.621 (2479.44 ℥)	7.268	0.647	109.8%	×
二酸化炭 素排出量	軽油消費量	P (175924.34 ℥)	495.794 (149265.38 ℥)	435.457	▲60.337	87.8%	○
二酸化炭 素排出量	灯油消費量	P (1559.00 ℥)	4.936 (1307.00 ℥)	4.278	▲0.658	86.7%	○
二酸化炭 素排出量	上記合計	kg- CO2	464463.67	395046.48	▲69417.19	85.1%	○
廃棄物排 出量	産業廃棄物排 出量	t	375.29	261.22	▲114.07	69.6%	○
化学物質 排出量	化学物質使用 量	kg	0.00	0.00	0.00	0%	○
社会貢献	環境への配慮 した活動件数	件	11	26	15	236.4%	○

●事業所環境目標の評価 7月～6月

二酸化炭素 排出量	電力消費量	前年比で未達。 天候による空調の使い方が影響している可能性がある。
二酸化炭素 排出量	ガソリン消費量	前年比でポイントと総量ともに達成。 社用車がディーゼル車になったことが影響している。
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	前年比でポイントと総量ともに未達。 社用車がディーゼル車になったことが影響している。
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	前年比で未達。 暖房期が長くなったのが影響している可能性がある。
廃棄物排出 量	一般廃棄物排 出量	前年比で達成。 例年通り新聞紙の量が多かった。
総排水量	水使用量	前年比で達成。 今後は雨水の利用など検討したい。
グリーン購 入	グリーン購入 件数	前年比で達成。 倍増しているので継続していく。

●建設現場環境目標の評価 7月～6月

二酸化炭素 排出量	ガソリン消費 量	前年比でポイントと総量とも未達。 レンタルガソリン車の増加で前年同様。
二酸化炭素 排出量	軽油消費量	前年比でポイントと総量とも達成。 売上の減少に伴い消費量も減っている。
二酸化炭素 排出量	灯油消費量	前年比でポイントと総量ともに達成。 暖冬により養生減少が原因。
廃棄物排出 量	産業廃棄物排 出量	前年比で達成。 比較することが困難。
化学物質排 出量	化学物質使用 量	購入数量がなかったため達成できた。 今後もこのまま様子をみていくたい。
社会貢献	環境への配慮 した活動件数	前年比で達成。 活動が明確になったのでやりやすくなってきた。

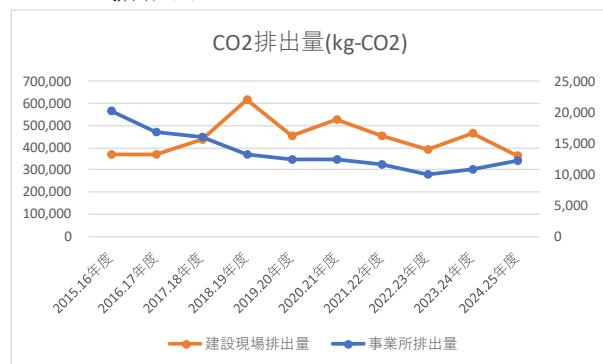
※二酸化炭素排出量(kg-CO₂)への換算方法は下記のとおり。

- ・電力消費量 kwh × 排出係数 0.591(2013 年度東北電力)
- ・ガソリン消費量 ℥ × 排出係数 0.0671 × 単位発熱量 34.6MJ/ ℥
- ・軽油消費量 ℥ × 排出係数 0.0686 × 単位発熱量 37.7MJ/ ℥
- ・灯油消費量 ℥ × 排出係数 0.0679 × 単位発熱量 36.7MJ/ ℥

※ガソリン・軽油・灯油消費量の P(ポイント)の算出方法は、各消費量 ÷ 売上高 × 100000 とする。

* CO2排出グラフ *

	事業所排出量	建設現場排出量
2015.16年度	20,162	369,283
2016.17年度	16,916	369,009
2017.18年度	16,020	436,872
2018.19年度	13,255	616,638
2019.20年度	12,415	451,675
2020.21年度	12,443	529,509
2021.22年度	11,513	456,477
2022.23年度	10,051	394,293
2023.24年度	10,887	464,464
2024.25年度	12,130	365,047





1.地元の材料と業者でつくったテーブル 2.恒例の河川清掃 3.資産運用の勉強会の実施 4.恒例の社内BBQ
 5.POWJapanとイベントの実施とパートナー関係の継続 6.wintersportsの上映会の実施 7.地元新電力の再エネプランへの切り替え

環境活動計画

以下のとおり、環境活動目標を策定し、取組状況の評価を○△×にて行った。○は十分、△は不十分、×は未実施とした。

●事業所電力消費量削減

- OA 機器待機電力削減
- 照明の不要時消灯
- トイレの暖房便座のタイマー化

●事業所ガソリン消費量削減

- 単一業務での車両利用の低減
- 自転車の利用
- エコドライブ研修会の実施

●事業所軽油消費量削減

- 単一業務での車両利用の低減
- 自転車の利用
- エコドライブ研修会の実施

●事業所灯油消費量削減

- 休日のタイマー暖房の禁止
- △設定温度の見直し
- バイオマスストーブの導入
- 寒冷地エアコンの導入

●事業所一般廃棄物排出量削減

- 漏れのなく排出量を測定
- リサイクルの推進

●事業所使用量削減

- 水サーバーの有効利用
- 節水トレーニング

●事業所グリーン購入推進

- 購入前の商品の確認
- 必要最低限の購入

●建設現場ガソリン消費量削減

- △機材のアイドリングストップ
- 充電式機材の利用

●建設現場軽油消費量削減

- 効率のよい重機作業の実施
- 乗り合い通勤の実施
- エコドライブ研修会の実施
- エコワーク研修会の実施
- △使用重機の燃費監視

●建設現場灯油消費量削減

- △暖房室にあった暖房器具の選定

●建設現場産業廃棄物排出量削減

- 購入資材の数量は余分なものが発生しないよう検討
- △必要なない消費行動は控える
- リサイクルの推進

●建設現場化学物質使用量削減

- 必要最低限の量を購入し、保管在庫も積極的に使用

●建設現場環境に配慮した活動の推進

- △各現場に見合った取組を検討し実行

以上の取組状況の評価を踏まえ、次年度以降の取組内容は以下のものを重点的に行う。

- 1 エコドライブ及びエコワーク研修会の反復実施
- 2 重機、車両、機材等の更新時に燃料消費量の少ないものの選定と消費量の監視
- 3 バッテリーや充電式機材の充実
- 4 リサイクル活動の充実

環境関連法規等の遵守の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社が遵守すべき主な環境関連法規等は以下のとおり。

環境関連法規等の名称	遵守すべき内容	遵守状況
廃棄物処理法	委託基準、委託契約、マニフェスト交付、交付状況の報告、保管場所掲示板設置	○
リサイクル法	再生資源利用計画書・実施書並びに促進計画書・実施書の作成	○
排出ガス対策型建設機械普及促進規定	排ガス対策機械の使用	○
道路交通法	積載基準の遵守	○

2025年10月29日付において、環境関連法規等の遵守状況を確認したところ、違反状態はみられなかった。また過去3年間、関係当局からの違反等の指摘や指導及び外部からの訴訟はなかった。

代表者による全体評価と見直し結果

●環境経営システムの有効性の評価

事業所において有効に見直しことは、もはや建物躯体の断熱改修くらいのみになってきている感じがする。現場においては、ただ1点、軽油の消費量の削減が一丁目一番地であることは変わりがないと思われる。なかなか有効な改善の手打ちがみえてこないと感じるが、全体的に有効であると評価する。

●環境経営システム変更の必要性

環境方針は変更の必要性はなし。今期は環境目標の更新時期であるため、今まで通りの目標設定を見直して、前年比での目標とした。建設現場の廃棄物を分別し、リサイクルする活動は有効に運営されているが、それを評価する手法がいまだ整備されていない。環境経営システムは前述のとおりシンプルにムダなく機能し、的確に評価できるように適宜見直す必要があったため、帳票を見直し、「環境コミュニケーション記録」と「問題点是正/予防処置票」を「失敗と成功の共有報告書」に統合した。

●代表者による総括

長年チャレンジしたかった Bcorp の認証取得にチャレンジしようと決めました。実際に認証取得まで辿り着くかどうかはわかりませんが、チャレンジしていく過程でもっと働きやすい環境へと改善できるのではないかと考えております。Nonfit の太陽光発電所の設置も施工するまでの段階に到達しました。また小規模の小水力発電所の設置も検討に入りました。再エネ電源開発を事業の柱としてモッチャーとともに育てていけたらと考えています。地域でエネルギーとお金を循環させることで、より強度のある地域経済が生まれ、地域にある問題点を解決できるような姿を目指したいと思います。